

事業者アンケート

事業者アンケートの概要

優良緑地確保計画認定制度について、評価項目・評価基準や申請書類の改善の必要性等を検討するため、令和6年度及び令和7年度申請いただいた19事業者を対象にアンケート調査を実施し、14社から回答を得た。

アンケート調査の内容

Q1：回答者の基本情報

Q2：必須項目（コア評価項目の必須項目・ベース評価項目）について、以下の設問に該当する項目とその理由をお教えてください。

- ①提出書類や求められている数値の算定方法等が分かりにくかった項目
- ②提出書類の作成に時間を要した項目
- ③社内では提出書類の作成が困難であった項目（外部への委託等を実施した項目）

Q3：選択項目（コア評価項目）について、お教えてください。

Q3-1：選択した項目について、選択した理由（複数選択可）とその詳細をお聞かせください。

緑地の質を確保するために重要な項目だと判断したため／関係者から取組の実施を求められることが多い項目であるため
評価対象となる取組を実施・計画しており、高い点数を獲得することができるため／申請者用手引きの記載が明瞭で提出書類が分かりやすいため
提出書類の作成に要する時間・コストが比較的かからないため／既存の資料で提出書類の全部または一部を代替することができるため
作成する提出書類を他の項目の提出書類としても活用することができるため／選択していない

Q3-2：選択した項目について、以下の設問に該当する項目とその理由をお教えてください。

- ①提出書類や求められている数値の算定方法等が分かりにくかった項目
- ②提出書類の作成に時間を要した項目
- ③社内では提出書類の作成が困難であった項目（外部への委託等を実施した項目）

Q3-3：選択しなかった項目について、選択しなかった理由（複数選択可）とその詳細をお聞かせください。

当該緑地では、評価対象となる取組の実施が難しいため／評価対象となる取組の実施は可能であるが、申請段階では実施・計画していないため
評価対象となる取組は実施・計画しているが、獲得できる点数が低いと見込まれたため／求められる提出書類や数値の算定方法が分かりにくかったため
提出書類の作成や数値の算定に要する時間・コストがかかると想定されたため／選択した

【必須項目】コア評価項目の必須項目・ベース評価項目

- 「提出書類等が分かりにくかった項目」や「提出書類の作成に時間を要した項目」として回答数が多かった項目
 - ・【No.1：緑地による温室効果ガスの吸収】 30年経過した緑地の扱いに関する記載が分かりにくかった／統一された入力フォーマットを準備・提供いただけると申請者の作業負担の軽減および手続きの簡略化につながる／既存のCO₂算出結果を流用できなかったため作成に時間を要した 等
 - ・【No.16：地域に根差した植生の保全・創出】 既存緑地だったため毎木調査等や図面作成を行う必要があった／植栽の在来種に該当するかどうかを確認するのに時間を要した 等
 - ・【No.20：プラスチック等の化学物質の適正管理】 対象物の範囲が理解しづらかった／どこまで詳細な情報が求められるのかが判断しにくい／施工中であったため資料収集に苦労した 等
 - ・【No.21：生物多様性に配慮した資材の調達】 既存の資料で転用できるものがなく現地を踏査してリストと図面を作成した／施工中であったため資料収集に苦労した 等

【選択項目】

- 選択項目としては、「No.15 良好な生息・生育環境形成に資する取組」を選択した事業者が多い。（13/14事業者）
- 選択理由としては、「緑地の質を確保するために重要な項目と判断した」、「評価対象となる取組を実施・計画しており、高い点数を獲得することができるため」の回答数が多い。
- 一方で、選択した項目のうち「No.12 まとまりのある緑地の確保」について、提出書類等が分かりにくかったという回答が多い。
 - ・【No.12：まとまりのある緑地の確保】 まとまりのある緑地の定義や算出方法が分かりにくかった／既存緑量の把握・計測に手間を要した 等

【非選択項目】

- 選択しなかった主な理由としては、以下のとおりであった。
 - ・【気候変動対策】「No3.ライフサイクルを通じた温室効果ガスの把握・削減」、「No7.緑陰による熱中症対策」等を中心に全ての項目で「提出書類の作成や数値の算定に要する時間・コストがかかると想定されたため」という回答が多い。
 - ・【生物多様性の確保】「No17.生態系ネットワークの形成」において「提出書類の作成や数値の算定に要する時間・コストがかかると想定されたため」という回答が多い。
 - ・【Well-beingの向上】「No26.避難場所の確保」、「No27.緩衝緑地の確保」、「No35.農の活用」において「当該緑地では、評価対象となる取組の実施が難しいため」という回答が多い。

必須項目（コア評価項目の必須項目・ベース評価項目）について

- 「提出書類等が分かりにくかった項目」や「提出書類の作成に時間を要した項目」としては、「No.1 緑地による温室効果ガスの吸収」の回答数が多い。
- また、生物多様性の確保の必須項目においても、回答数が多い項目がある。

	7件以上
	4-6件
	1-3件
	0件

			①提出書類や求められている数値の算定方法等が分かりにくかった項目	②提出書類の作成に時間を要した項目	③社内では提出書類の作成が困難であった項目(外部への委託等を実施した項目)
コア評価項目	気候変動対策	No1.緑地による温室効果ガスの吸収	7	7	3
		No10.資源の有効活用	0	0	2
	生物多様性の確保	No11.水使用量の削減	3	0	3
		No13.階層構造の形成	2	1	3
		No16.地域に根差した植生の保全・創出	1	5	2
		No18.外来種の侵入防止・防除	2	1	1
		No19.化学農薬・化学肥料の使用量削減	0	1	4
		No20.プラスチック等の化学物質の適正管理	4	2	1
		No21.生物多様性に配慮した資材の調達	4	5	1
	Well-beingの向上	No23.公開性の確保	0	0	1
		No24.ユニバーサルデザイン	2	0	1
		No25.防犯性・安全性の向上	0	0	1
		No28.身体的健康の増進	0	0	1
		No29.精神的健康の増進	0	0	1
ベース評価項目	No37.事業の目的・目標の明確化		3	2	1
	No38.整備・維持管理計画の作成		1	0	1
	No39.実施体制の明確化		0	0	1
	No40.専門家の関与		0	0	1
	No41.資金の確保		2	0	1
	No42.モニタリングの実施		2	0	1
	No43.情報の開示		3	0	1
	No44.地域住民等とのコミュニケーション		0	1	1
	No45.ネガティブ・インパクトの管理		1	1	1
	No46.自然環境・歴史文化の把握・反映		0	2	1
	No47.社会的状況の把握・反映		0	2	1
	No48.法令遵守		0	2	1
	No49.行政計画の把握・反映		0	1	2
	No50.適切な課題の設定		1	0	1

【各設問に該当すると回答した理由】

項目	①提出書類や求められている数値の算定方法等が分かりにくかった理由
【No.1】 緑地による温室効果 ガスの吸収	・30年経過した緑地でデータがないような場合にどう対処するか記載が分かりにくかった。計算がかなり煩雑であると感じた。 ・樹齢の調査が困難であった。 ・対象となる樹高が限定され、既存のCO2算出結果を流用できなかったため、作成に時間を要した。 ・注釈に整備後30年経過した緑地については対象外とする記載があったが、必須であるため回答が不要である事がわからなかった。また、不要であった際に0点が選択できない。 ・大半が緑豊かな大径木の既存木樹林であるが、土壌やリターの炭素貯留量が計上できないためレベル1であった。炭素固定量算定基準の再考を希望する。 ・緑地によるCO2吸収量の算定方法の理解および対象樹種の科名・属名の確認に時間を要した。
	②提出書類の作成に時間を要した理由
	・Excelを一度作成すれば、今後の処理を省力化できるものと考えている。また統一された入力フォーマットを準備いただけると、申請者の作業負担の軽減および手続きの簡略化につながる。 ・既存のCO2算出結果を流用できなかったため、作成に時間を要した。 ・既存緑地だったため、緑地全部の毎木調査と図面作成を行う必要があった。 ・公園の既存木の毎木調査が必要と指摘があり実施した。調査員延べ20人工を要した。 ・敷地内の500本超の樹木に対し、科名を特定し、樹種別の年間生体バイオマス成長量係数を当てはめて計算する作業に長時間を要した。 ・緑化計画書上では、属名までは記載していないので、一つ一つ属名を調べて表の数値との照らし合わせが必要だった。
	③社内では提出書類の作成が困難であった理由
	・既存緑地だったため、毎木調査を行う必要があった。 ・作成において専門知識とノウハウ及び労力が必要であった。 ・全体的に植栽に関する技術的事項や図面の調整等については、基本的に設計者へ委託している。

必須項目（コア評価項目の必須項目・ベース評価項目）について

【各設問に該当すると回答した理由】

項目	①提出書類や求められている数値の算定方法等が分かりにくかった理由
【No.16】 地域に根差した植生の 保全・創出	・計画段階の緑地の評価基準として採用するのは理解できるが、外部から流入した種や土壌に含まれていた種などが生育している森では、地域性種苗かを判断するのは困難である。 ・提示された参考文献の理解に時間を要した。
	②提出書類の作成に時間を要した理由
	・既存緑地だったため、毎木調査等や図面作成を行う必要があった。 ・植栽の在来種に該当するかどうかを確認するのに時間を要した。 ・在来種の判断の参考とした図鑑や地域の植物誌等の文献資料情報の取りまとめに時間を要した。
	③社内では提出書類の作成が困難であった理由
	・既存緑地だったため、毎木調査等を行う必要があった。 ・作成において専門知識とノウハウ及び労力が必要であった。

項目	①提出書類や求められている数値の算定方法等が分かりにくかった理由
【No.19】 化学農薬・化学肥料 の使用量削減	—
	②提出書類の作成に時間を要した理由
	・化学農薬を使用してこなかった施設であり、使用する化学農薬の想定がなかったため、資料作成をまとめることに時間を要した。
	③社内では提出書類の作成が困難であった理由
	・化学肥料の散布実績は日報で記録されているものの、リスト化がされておらず、維持管理業者に作成を依頼する必要があった。 ・当社にて専門部署がなく、植栽の維持管理委託会社に依頼した。 ・作成において専門知識とノウハウ及び労力が必要であった。

【各設問に該当すると回答した理由】

項目	①提出書類や求められている数値の算定方法等が分かりにくかった理由
【No.20】 プラスチック等の化学物質の適正管理	・行動指針の要件が厳しく、目標設定をしても実現が難しく形骸化する恐れがあり、計上を断念した。 ・対象物の範囲(緑地の維持管理に関する設置物以外は対象外であること)が理解しづらかった。手引きに緑地の維持管理に関するものだけが対象であることを明記してあると理解しやすい。 ・リスト化にあたり、どこまで詳細な情報が求められるのかが判断しにくい。根拠となる法令や施策がわかりにくい。 ・通常の計画では、プラスチックが使用されている場所や数量を取りまとめる、といった対応は行っていないため、項目で求められている内容、及び資料作成に時間を要した。
	②提出書類の作成に時間を要した理由
	・施工に関する資料は別部署が担当していること、施工中であったため資料収集に苦労した。 ・対象物の範囲が理解できておらず、緑地の維持管理に関する設置物以外のものも含めて現地記録・データ整理を行っていたため、時間を要した。
	③社内では提出書類の作成が困難であった理由
	・作成において専門知識とノウハウ及び労力が必要であったため。

【各設問に該当すると回答した理由】

項目	①提出書類や求められている数値の算定方法等が分かりにくかった理由
【No.21】 生物多様性に配慮した資材の調達	・サプライチェーン全体での「サステナブル調達ガイドライン」を掲げているが、個別の部材について生物多様性に配慮したものであるかは追えておらず、プラスチックなどと同様に数量の取りまとめも行っていないため、要件の理解、及び資料作成に時間を要した。 ・使用している一部の資材で生物多様性に配慮したと分かる資料はあるが、「一部」の程度が分からず計上しなかった。 ・対象物の範囲（緑地の維持管理に関する設置物以外は対象外であること）が理解しづらかった。手引きに緑地の維持管理に関するものだけが対象であることを明記してあると理解しやすい。 ・リスト化にあたり、どこまで詳細な情報が求められるのかが判断しにくい。
	②提出書類の作成に時間を要した理由
	・既存の資料で転用できるものが無く、現地を踏査してリストと図面を作成したため。 ・施工に関する資料は別部署が担当していること、施工中であったため資料収集に苦労した。 ・竣工から10年以上経過した物件のため、生物多様性等に配慮している調達ができているかの確認が困難であったため、直近で整備した什器のみの提出とした。 ・対象物の範囲が理解できておらず、緑地の維持管理に関する設置物以外のものも含めて現地記録・データ整理を行っていたため、時間を要した。 ・造園施工会社や管理会社への問い合わせ、情報確保に時間を要した。
	③社内では提出書類の作成が困難であった理由
	・作成において専門知識とノウハウ及び労力が必要であった。

選択項目（コア評価項目）について【選択した項目の選択理由】

- 選択項目（コア評価項目）の選択理由としては、「緑地の質を確保するために重要な項目と判断した」、「評価対象となる取組を実施・計画しており、高い点数を獲得することができるため」の回答数が多く、特に「No.15 良好な生息・生育環境形成に資する取組」で多かった。

	7件以上
	4-6件
	1-3件
	0件

		緑地の質を確保するために重要な項目だと判断したため	関係者から取組の実施を求められることが多い項目であるため	評価対象となる取組を実施・計画しており、高い点数を獲得することができるため	申請者用手引きの記載が明瞭で提出書類が分かりやすいため	提出書類の作成に要する時間・コストが比較的にかからないため	既存の資料で提出書類の全部または一部を代替することができるため	作成する提出書類を他の項目の提出書類としても活用することができるため
気候変動対策	No2.木材利用による炭素貯留	0	0	1	0	1	1	0
	No3.ライフサイクルを通じた温室効果ガスの把握・削減	0	0	0	1	2	0	0
	No4.建築物の緑化による温室効果ガスの排出削減	1	0	0	0	1	2	0
	No5.地表面温度の抑制	2	1	3	0	1	2	0
	No6.風の道の形成	1	0	4	1	3	3	0
	No7.緑陰による熱中症対策	2	1	2	0	0	0	0
	No8.雨水の貯留浸透	4	0	3	1	2	1	0
	No.9再生材の使用	2	1	2	1	0	2	1
生物多様性の確保	No12.まとまりのある緑地の確保	3	1	4	2	4	5	1
	No14.エコトーンの形成	5	2	6	2	2	1	0
	No15.良好な生息・生育環境形成に資する取組	9	1	9	4	2	5	0
	No17.生態系ネットワークの形成	2	1	3	1	1	1	0
	No22.環境教育の実施	5	0	6	3	2	2	0
Well-beingの向上	No26.避難場所の確保	1	1	1	0	0	0	0
	No27.緩衝緑地の確保	1	0	4	1	1	2	1
	No30.社会的健康の増進・地域コミュニティの形成	4	1	5	3	2	1	0
	No31.人々の交流・滞在の促進	3	0	2	2	0	0	0
	No32.地域と連続した歩行可能な空間の形成	5	0	6	3	2	2	0
	No33.沿道緑化	4	1	5	3	2	3	0
	No34.デザインコンセプトの設定	6	2	3	2	1	5	1
	No35.農の活用	2	0	3	1	0	1	0

選択項目（コア評価項目）について【選択項目の課題】

○ 選択した項目のうち「No.12 まとまりのある緑地の確保」について、提出書類等が分かりにくかったという回答が多い。

	7件以上
	4-6件
	1-3件
	0件

		①提出書類や求められている数値の算定方法等が分かりにくかった項目	②提出書類の作成に時間を要した項目	③貴社内では提出書類の作成が困難であった項目（外部への委託等を実施した項目）
気候変動対策	No2.木材利用による炭素貯留	0	0	0
	No3.ライフサイクルを通じた温室効果ガスの把握・削減	1	0	0
	No4.建築物の緑化による温室効果ガスの排出削減	0	0	0
	No5.地表面温度の抑制	2	1	2
	No6.風の道の形成	1	0	1
	No7.緑陰による熱中症対策	1	1	0
	No8.雨水の貯留浸透	0	1	1
	No.9再生材の使用	0	0	0
生物多様性の確保	No12.まとまりのある緑地の確保	4	2	1
	No14.エコトーンの形成	0	0	0
	No15.良好な生息・生育環境形成に資する取組	0	1	1
	No17.生態系ネットワークの形成	1	1	2
	No22.環境教育の実施	0	0	1
Well-beingの向上	No26.避難場所の確保	1	0	1
	No27.緩衝緑地の確保	1	0	0
	No30.社会的健康の増進・地域コミュニティの形成	0	1	1
	No31.人々の交流・滞在の促進	0	0	1
	No32.地域と連続した歩行可能な空間の形成	0	0	1
	No33.沿道緑化	1	2	1
	No34.デザインコンセプトの設定	0	0	1
	No35.農の活用	0	0	0
	No36.先進的取組	0	2	1

選択項目（コア評価項目）について【選択項目の課題】

【各設問に該当すると回答した理由】

項目	①提出書類や求められている数値の算定方法等が分かりにくかった理由
【No.12】 まとまりのある緑地の確保	・ABINCの「まとまりのある緑地づくり」では同じ景観が続く範囲が対象になるが、TSUNAGでは異なる景観（たとえば樹林と草地）でも対象となる。似たようで違いがあるためわかりにくかった。 ・多くの苗木を植栽する方法でつくられた緑地が対象となる場合、植栽平面図は作成されていない。同じような緑地づくりをする企業もあるため、代替となる資料を最初から手引きに示してほしい（No.13も同じ）。舗装図も作られていないため、図面ではなく緑地が舗装面で分断されていないことを写真で示せばよいなどの記載を入れてもらいたい。 ・まとまりのある緑地の定義や算出方法がわかりにくかった。一連のつながった緑地であっても、幅が狭いところは不可なのかなど制約条件がわかりにくい。事務局には複数回質問のやりとりをした。 ・計算方法の詳細については手引きに記載されているが、事務局担当者からの指摘を受けて、より正確に理解することができた。 ・歩道が緑地を分断するものかどうかの仕上の基準が少し分かりにくかった。
	②提出書類の作成に時間を要した理由
	・GIS上で新たにデータ作成をしたため手間がかかった。 ・既存緑量の把握および計測にあたっては手間を要した。計測方法については具体的な手順が定められていないため、各自で工夫して対応する必要があった。
	③社内では提出書類の作成が困難であった理由
	・作成において専門的知識と労力が必要であった。

選択項目（コア評価項目）について【選択しなかった理由】

- 気候変動対策の選択項目では「時間・コストがかかる」と想定されたため」という回答が多く、Well-beingの向上の選択項目では「評価対象となる取組の実施が難しいため」という回答が多かった。

	7件以上
	4-6件
	1-3件
	0件

		当該緑地では、評価対象となる取組の実施が難しいため	評価対象となる取組の実施は可能であるが、申請段階では実施・計画していないため	評価対象となる取組は実施・計画しているが、獲得できる点数が低いと見込まれたため	求められる提出書類や数値の算定方法が分かりにくかったため	提出書類の作成や数値の算定に要する時間・コストがかかる」と想定されたため
気候変動対策	No2.木材利用による炭素貯留	2	1	5	3	4
	No3.ライフサイクルを通じた温室効果ガスの把握・削減	2	3	2	3	7
	No4.建築物の緑化による温室効果ガスの排出削減	3	3	4	1	3
	No5.地表面温度の抑制	0	1	1	2	6
	No6.風の道の形成	3	2	0	2	5
	No7.緑陰による熱中症対策	1	1	3	3	7
	No8.雨水の貯留浸透	1	0	2	1	4
	No9.再生材の使用	3	2	0	1	6
生物多様性の確保	No12.まとまりのある緑地の確保	3	0	2	0	0
	No14.エコトーンの形成	3	1	2	0	0
	No15.良好な生息・生育環境形成に資する取組	1	0	1	0	0
	No17.生態系ネットワークの形成	2	2	2	3	7
	No22.環境教育の実施	3	1	1	0	1
Well-beingの向上	No26.避難場所の確保	8	0	2	0	2
	No27.緩衝緑地の確保	7	0	2	1	0
	No30.社会的健康の増進・地域コミュニティの形成	3	1	1	0	1
	No31.人々の交流・滞在の促進	4	1	3	1	3
	No32.地域と連続した歩行可能な空間の形成	3	0	1	0	0
	No33.沿道緑化	1	1	3	0	1
	No34.デザインコンセプトの設定	1	1	0	0	4
	No35.農の活用	9	1	1	0	0

選択項目（コア評価項目）について【選択しなかった理由】

【「提出書類の作成や数値の算定に要する時間・コストがかかると想定されたため」の回答理由】

項目	理由の詳細
【No.3】 ライフサイクルを通じた温室効果ガスの把握・削減	・提出書類の作成時間がかかり、獲得点数も低いと想定された。 ・施工が進んだ段階での対応は困難であった。 ・ビルと一体となって整備された緑地であり、緑地のみのライフサイクルカーボンの算出が困難だった。 ・申請準備時点で情報がなかった。
【No.7】 緑陰による熱中症対策	・提出書類の作成時間がかかり、獲得点数も低いと想定された。 ・地表面のほとんどが緑化されており、高得点が期待されたが、外部委託が必要な日影図の提出が必須であった。 ・数値の算定に時間を要すると見込まれた。
【No.17】 生態系ネットワークの形成	・もともと自然豊かな森林を保全しているので、新たに作る緑地がなく点数が低くなると判断した。 ・GISソフトを使える業者に外注する必要がある、仮に外注したとしても今後活用できる見込みがなかったため。 ・解析を社内で行うことが難しく外部委託が必要で、時間・コストが掛かると想定されたため。

選択項目（コア評価項目）について【選択しなかった理由】

【「当該緑地では、評価対象となる取組の実施が難しいため」の回答理由】

項目	理由の詳細
【No.26】 避難場所の確保	・提出書類の作成時間がかかり、獲得点数も低いと想定されたため。 ・社員向けの閉じた施設のため点数を取得することが困難と判断した。 ・5点の要件を満たさなかったため。 ・浸水想定区域に指定されている範囲が含まれる。 ・近傍小学校が避難場所指定されており、高得点の獲得が難しい。 ・申請時点で、評価対象となる取組を実施していないため。
【No.27】 緩衝緑地の確保	・延焼の危険性のある建築物がないため。 ・現状で評価基準に満たないため。 ・算定方法・基準がわかりにくかった。 ・敷地(建物外構)の形状や広さの制約により、規定の緑量を確保することが困難であった。
【No.35】 農の活用	・敷地のコンセプトにそぐわないためこのような活動はそもそも実施は考えていない。 ・施設の機能として、(現時点では)農の活用は考えていないため。 ・当該プロジェクトでは市民農園のような機能はないため。